

# 年始市長記者会見 配布資料(参考)

平成22年1月4日(月) 午前10時30分

◇は21年中、◆は22年以降の内容です。

部	項目	概要
総務部	◎ 定住自立圏構想によるまちづくり	◇ 昨年9月15日、「定住自立圏構想」における中心市を宣言(小樽市、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村の6市町村連携)  ◆ 平成21年度内に、本市と周辺市町村それぞれとで「定住自立圏形成協定」を締結。新年度に、圏域全体の将来像や具体的な取り組みを記載する「定住自立圏共生ビジョン」を策定。
	◎ 銭函風力発電所建設計画の推進	◆ 昨年6月、日本風力開発株式会社による石狩湾新港地域での銭函風力発電所建設計画の推進に向けて、建設、運営、発電を行う銭函風力開発株式会社が設立された。現在、風車の配置計画の検討や環境アセスなどが進められている。条件が整い次第、今年前半にも着工し、平成24年の運転開始を目指している。
	◎ 北海道横断自動車道(余市・小樽間)関係について	◇ これまで24年以上にわたり、北海道横断自動車道黒松内・小樽間(108km)の全線開通に向けた要望活動を行ってきた。平成18年度、余市・小樽間23.4km事業着手。昨年10月、沿線9町会地区連絡協議会・ネクスコ・市3者が設計協議確認書を締結。平成30年度完成予定。
	◎ ソウル特別市江西区との友好都市締結	◆ 昨年2月5日ソウル特別市江西区と友好都市締結。10月末、本市使節団と少年サッカー使節団が江西区訪問。今年は潮まつりの頃に江西区少年サッカー使節団が来樽。一層の友好交流の深まりを受け、姉妹都市提携予定。
	◎ ダニーデン市との姉妹都市提携30周年記念	◆ 今年はダニーデン市との姉妹都市提携30周年を記念し、潮まつりの頃にピーター・チン市長をはじめとするダニーデン市使節団が来樽予定。また、今年10月には使節団を結成しダニーデン市を訪問。
	◎ 暮らしのガイド発行	◇ 市と広告代理店3社(北海道広告社、オープラン、北日本広告社)で構成する共同企業体が協定を締結し実施。昨年9月、市内全世帯と転入者へ無償配布。経費は広告料収入で賄い、市の財政負担なし。平成22年度も実施予定。(21年度実績7万部発行、A4版、フルカラー、212ページ、広告掲載企業数79社)
	◎ ホームページリニューアル事業の実施	◇ 昨年11月20日、オープンソースを利用し、経費を最小限に抑えた中でホームページをリニューアル。音声読み上げや文字拡大機能を備えるなど、高齢者や視覚障害者の利用に配慮。また、迅速な情報発信が可能となった。
財政部	◎ 財政健全化の取り組み	◇ 平成21年度の財政見通しは、普通交付税は予算額を上回ったものの、景気の低迷等による税収の落ち込みが懸念されるなど、厳しい現状にある。残すところ、あと3か月ではあるが、平成21年度において財政健全化計画で見込む1億1,600万円の単年度黒字の確保に努める。  ◆ 平成22年度の予算編成に当たっては、国の予算動向などの情報収集に努め、限られた財源の有効活用を念頭に、目標とする平成24年度までの累積赤字の解消に向けて、これまでの取り組みを緩めることなく推進。

◇は21年中、◆は22年以降の内容です。

部	項目	概要
財政部	◎ インターネット公売の実施	◇ 昨年から、ヤフージャパンが提供するインターネットオークションを利用し、市税の滞納により差し押さえた財産の公売を実施。昨年5月～12月の間5回実施。出品公売物件は、レトロな自動式卓上電話機など37件。うち落札物件32件、市税充当額326,720円。
産業港湾部	◎ 夜のにぎわいづくり	◇ 昨年の雪あかりの路開催期間中、小樽観光プロジェクト推進会議の働きかけで、堺町地区の6社が「堺町ナイトマーケット」を企画し、堺町地区の67店舗が7時から9時まで限定品の販売や割引を実施。また、7月19日(日)には「堺町夏まつり」開催。
	◎ 地域の魅力度アップ 観光イベントの助成	◇ 観光事業者との連携が図られ、観光客の集客及び今後の継続が期待できる新たなイベントに対して助成。前期は「第1回おたる祝津にしん祭り」に対して助成、後期は募集中。
	◎ クリスマス・シンボル事業の取り組み	◇ 昨年、小樽ロングクリスマス開催に合わせ、小樽クリスマス・シンボル事業実行委員会が運河プラザ前にガラス製の浮き玉を使った「浮き玉ツリー」を設置。その効果もあり、売り上げは前年比で2割アップ。
	◎ 地元産食のブランド 確立と観光イベント	◇ 昨年11月21日(土)・22日(日)、小樽の食のブランド化推進の確立を目的に「おたる産しゃこ祭」が開催された。参加者は第1回の昨年を上回る2万人。
	◎ 地場産品の販路拡大 (道外百貨店での 取り組み)	◇ 昨年、道外百貨店35会場で「北海道の物産と観光展」を開催。中でも最高売上を更新する鹿児島市の山形屋で、初めて「小樽デー」を2日間開催。 本市単独としては、昨年12月11日から6日間、仙台市藤崎百貨店で、第2回「小樽の物産と観光展」を開催。さらに12月22日から6日間、長崎市浜屋百貨店で、今日から8日間、静岡県沼津市西武沼津店で物産展初開催。
	◎ 地場産品の販路拡大 (札幌圏での取 組み)	◇ 昨年、「小樽の物産と観光フェア」を3会場(手稲区・西区・東区)で開催。1会場(手稲区)を増やし、売り上げも約1822万円と伸びた。本年はさらに1会場(清田区)拡大予定。
	◎ 地場産品の販路拡大 (インターネット ショップの開設)	◇ 昨年10月31日、(社)小樽物産協会に開設・運営を委託した、本市独自のインターネットショップサイト「小樽家族」をオープン。今後、さらなる商品の充実と企業の垣根を越えたセット商品などを提供。
	◎ 商店街等の活性化 について(「小樽で買 物」キャンペー ンセール助成事業)	◇ 昨年、定額給付金の支給に合わせて実施した「小樽で買物」キャンペーンセール助成事業には、43の商店街団体が参加。中には、初めて販売促進活動を行った商店街などもあり、市内各地域で実施。
◎ 商店街等の活性化 について(「オールお たる年末年始大売 出し」等への支援)	◆ 商店街振興組合が主催する「オールおたる年末年始大売出し」をはじめ、市場連合会が年末年始に10年ぶりに開催する「スタンプラリー」、小樽商科大学の学生と中心商店街が共同して行う「雪あかりの路商店街イベント」を支援。	

◇は21年中、◆は22年以降の内容です。

部	項目	概要
産業 港 湾 部	◎ 小樽市新規高等学校卒業生雇用奨励金の創設	◆ 「小樽市新規高等学校卒業生雇用奨励金」を創設。市内に住民登録があり、本年3月の道内高等学校卒業生を6ヶ月以上雇用している事業所に対し、一人につき20万円を交付。(対象事業所用件:市内に本社・本店がある事業所、または、市内に本社・本店が無いが企業従業員が100人以下の事業所で雇用保険適用の市内事業所であることなど)
	◎ 小樽がらす市の実施	◇ 昨年7月23日(金)から3日間、おたる潮まつりの開催にあわせて旧国鉄手宮線にて第1回「小樽がらす市」を実施。全国から27(うち市内15)の工房等が出展、2万人が来場。
	◎ 上海市場調査事業の実施	◆ 今月29日(金)から10日間、「中国及びロシアでの市場調査事業等実行委員会」が、グローバルジャパンプラザ(上海)で市場調査事業と観光PRを実施。これに併せて、市は1月28日(木)から4日間の日程で上海訪問団を組織し、観光客誘致活動を展開(ゴルフ旅行の提案予定など。)
	◎ クルーズ客船の誘致	◇ 昨年、クルーズ・オブ・ザ・イヤーのグランプリを受賞した「飛んでクルーズ北海道」の「にっぽん丸」を初め、外国客船5隻を含む過去最高の15隻のクルーズ客船が小樽港に入港。(H17年6隻、H18年13隻、H19年9隻、H20年10隻)  ◆ 本年は、大改装後の「にっぽん丸」入港を皮切りに、小樽港では過去最大トン数となる、外国客船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」(69,000トン)など、過去最高の16隻が入港を予定。
生活 環 境 部	◎ 多重債務特別相談窓口の開設	◇ 平成21年度から、多重債務問題の改善に向け、消費者センターに専門的な相談員を配置した特別相談窓口を週1回開設。相談日時:毎週木曜日10:00~16:00 場所:消費者センター 相談員1名(消費者センター相談員:専門研修修了者)
	◎ 住民票の写しを受け取れるコンビニエンスストアの店舗数拡大	◆ 平成16年4月から「住民票の写し」を市内の一部コンビニエンスストア(ローソン全店8+セイコーマート3店舗)で受け取れるサービスを開始。今日からは市内セイコーマート全店で受け取れるようになり、サービスを11店舗から23店舗に拡大。
	◎ 小樽市環境基本条例の制定	◆ 平成20年、洞爺湖サミットが開催され、市内でも市民、団体、事業者による環境に対するさまざまな取り組みが行われ始めた。こういった状況を踏まえ、本市の快適な生活環境を維持・保全し、将来の世代へと引き継ぐ観点から、今年中に環境基本条例を制定予定。今日から1か月間、パブリックコメントを実施。
	◎ ポイ捨て防止! 街をきれいにし隊	◇ ポイ捨て防止! 街をきれいにし隊は、平成18年6月結成。昨年は、4月から10月までの月1回、各種団体や学校などと連携し街頭啓発や清掃活動を実施。6月には大規模海岸清掃「東小樽~銭函間海岸クリーン作戦」を実施。昨年参加延べ人数、1,003名。

◇は21年中、◆は22年以降の内容です。

部	項目	概要
福祉部	◎ 高齢者見守りネットワーク会議及び独居高齢者等給食サービスの拡大	◇ 昨年7月、高齢者の見守りネットワーク会議を設置し、見守り意識の醸成や異変に気づいた場合に地域包括支援センターへ連絡するなどのルールを明確化。 また、市が見守り活動の一環として行っている「独居高齢者等給食サービス」(週1回弁当宅配)について、今年度から業者委託やグループ利用も取り入れ、市内全域で給食サービスが受けられるようになった。
	◎ 真栄保育所の新築・移転(あおぞら保育園に名称変更)	◇ 平成20年4月、真栄保育所を社会福祉法人小樽四ツ葉学園へ移譲。昨年3月新築工事が完成し、同年4月「あおぞら保育園」に名称変更し保育を開始。新保育所では、定員80人は変更ないが、0歳児定員を3人から6人に増やし、生後57日目からの産休明け保育、午後7時までの延長保育、一時保育を新たに実施。 (参考)鉄筋コンクリート造平屋建 784.26㎡ 事業費約2億2,000万円
保健所	◎ こんにちは赤ちゃん訪問事業の実施	◇ 昨年4月、生後4か月までの乳児のいる全家庭を訪問し、育児などの相談に応じるほか、子育てに関する情報を提供する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」を開始。実施状況：保健師が4月から10月まで398件訪問。今後、必要に応じて保育士との連携を検討。
	◎ 新型インフルエンザワクチンの接種	◇ 昨年11月16日から、妊婦や基礎疾患を有する方を対象にワクチン優先接種開始。接種スケジュールが前倒しされ、優先接種対象者全員が医療機関での接種が可能となり、今月内には、国から健康成人への接種方針が通知される予定。接種者数は11月末で6,500名程。
建設部	◎ 小樽駅前第3ビル周辺地区第一種市街地再開発事業	◇ 昨年6月、新しい3ビルが小樽駅前第3ビル周辺地区市街地再開発事業で完成。(商業施設(地下1階、地上1階)、ホテル(客室247室)、分譲マンション(117戸))
	◎ ふるさとまちづくり協働事業	◇ 昨年5月、市民団体が取り組む個性豊かなまちづくり事業に対して助成を行う「ふるさとまちづくり協働事業」を創設。 昨年実績：助成総額3,823千円、助成事業「小樽の歴史絵本を作成し学校等へ寄贈する事業」や「ご当地グルメやスイーツの開発事業」など13件。  ◆ 本年は、助成を決定した事業の事業成果や反省点などについて報告会を開催。この報告会の内容を生かし、4月には新たな事業の募集を行う。
	◎ 景観計画及び景観条例	◇ 『景観法』の制定を受け、市は昨年2月『景観計画』を策定し、昨年4月『改正景観条例』を施行。形態・意匠・色彩などについて、景観計画の行為の制限に適合しない場合に変更命令を行うことができるなど法の裏付けを持った景観誘導を行うことが可能となった。
	◎ 市営住宅整備事業について	◆ 新築中のオタモイ住宅3号棟は、今年8月の完成予定。ユニバーサルデザインを導入し、段差解消、手すり・エレベーターや緊急ブザーなど設置。(鉄筋コンクリート造3階建て、延べ面積3,505㎡、1LDK28戸・2LDK12戸・3LDK4戸・身障者用住戸1戸) 本年2月に北海道から事業主体変更する若竹団地2号棟は、改修工事を行い平成23年4月から入居予定。(鉄筋コンクリート造7階建て、延べ面積約3,600㎡。耐震補強と住宅部分の改善工事を平成22年度内に完成予定。2DK30戸、3LDK10戸)

◇は21年中、◆は22年以降の内容です。

部	項目	概要
病院局	◎ 小樽市立病院改革プランの策定	◇ 平成19年12月に総務省から示された公立病院改革ガイドラインに基づき、昨年1月小樽市立病院改革プランを策定した。また、同プランに基づき公立病院特例債を借入。
	◎ 病院事業への地方公営企業法の全部適用導入	◇ 昨年4月、病院事業へ地方公営企業法全部適用を導入。病院事業管理者を設置。
	◎ 市立小樽第二病院の名称変更	◇ 昨年6月、市立小樽第二病院の名称を「小樽市立脳・循環器・こころの医療センター」に変更。
	◎ 許可病床数の適正化	◇ 昨年7月から許可病床数を市立小樽病院では518床から223床に、医療センターでは352床から222床に削減。
	◎ 小樽市立病院改革プランに係る再編・ネットワーク化の最終報告	◇ 昨年11月、再編・ネットワーク化協議会から小樽市立病院改革プランに係る再編・ネットワーク化についての最終報告を受け、市立病院改革プランを一部修正。
	◎ 新病院建設に向けて	◆ 病院建設に向けて、財政問題、建設地の問題などの課題を解決して、基本設計の着手と実施設計に向けた一定の道筋をつけたい。
水道局	◎ 中央下水終末処理場汚泥焼却炉の運転開始について	◇ 平成18年から更新工事を進めていた汚泥焼却炉が完成し、昨年8月から運転を開始。新焼却炉は、最新技術を採用し省エネルギー化を図り、天然ガス使用により二酸化炭素排出量を削減するなど環境に配慮した施設。
教育部	◎ 市立小樽美術館開館30周年記念特別展	◇ ①特別展Ⅰ「画家たちのパリ」 第1次世界大戦前後に渡仏した小樽の3名の画家に焦点を当てながら、北海道立近代美術館で収蔵する「エコールド・パリ」の作品展示。5/23～7/20 観覧者数5,684人(※過去の特別展では、2番目に多い実績) ②特別展Ⅱ「女流三作家のまなざし」 国内外で活躍し、渡仏経験を持つ小樽出身などの女流画家3名の作品展示。7/25～9/22 観覧者数2,021人
	◎ 文学館・美術館再整備事業	◆ 平成22年度より小樽市分庁舎を文学館・美術館の専用施設と位置付け内部改修を予定。 (再整備の概要)①1階:市民ギャラリーや展示会、ミニコンサートなどとして利用できる多目的スペース、研修室などに内部改修。②駐車場:旧国鉄手宮線と一体感を持たせた開放的な空間を確保して、イベントに活用できるような目的広場に整備。③3階:新たに一原有徳作品専用の展示室を設置。小樽の重要な観光資源である旧国鉄手宮線と併せて文学館・美術館を再整備。概算額:8,800万円
	◎ アイアンホース生誕100年祭記念事業	◇ 昨年、蒸気機関車「アイアンホース号」が、北海道鉄道発祥の地、手宮で生誕100年を迎えたことから、8月にコンサート、講演など様々な記念事業を実施した。

◇は21年中、◆は22年以降の内容です。

部	項目	概要
教育 部	◎ 重要文化財旧手宮 鉄道施設機関車庫3 号保存修理工事の 終了と完成記念事業	<p>◇ 平成18年度より施工していた機関車庫3号の保存修理工事は、昨年10月終了。(屋根葺き替え、外壁等の破損箇所の補修、構造補強工事、正面入口煉瓦アーチ積み直しと大戸の整備復旧、内部土間コンクリートの撤去と車輛点検用ピットの復旧、正面側煙突三本の復旧、機関車庫としての機能回復)</p> <p>◆ 今年4月29日、保存修理工事の終了を記念して完成式典を実施。(修理工事報告と記念講演会の開催、修理工事に係る資料展示) また、平成22年度全国近代化遺産活用連絡協議会総会並びにフォーラム等を小樽市で開催。</p>
	◎ 市立小中学校の規 模・配置の適正化に ついて	<p>◇ 平成20年2月に小樽市立小中学校学校規模・学校配置適正化基本計画素案をまとめ、市内42会場で開催した地域説明会での意見等を踏まえ昨年9月に原案を作成。パブリックコメント手続きを経て昨年11月に基本計画を策定。</p> <p>◆ 基本計画に基づき、6つの地区ブロックごとに統合校の位置や統合の組み合わせなどについて地区別に懇談会を開催し、協議を進める予定。</p>
	◎ 小中学校の地デジ 化	<p>◆ 今年3月末までに全小中学校でアンテナとデジタルチューナーを整備して、地デジ化を進める。</p>
	◎ 小中学校教育用パ ソコンの更新	<p>◆ 今年3月末までに全小中学校で教育用パソコンを更新(小学校297台、中学校456台)。併せて、プリンターやプロジェクターなども購入。</p>
	◎ 学校耐震化工事着 工と太陽光パネル設 置	<p>◆ 今年、長橋小学校、桜小学校、朝里小学校、朝里中学校、銭函中学校の5校で耐震化工事に着工し、12月末までには完了予定。また、長橋小学校の屋上に10kw規模の太陽光パネル設置。発電した電気を校内使用し、環境教育の教材としても活用。</p>
消 防 本 部	◎ 消防署朝里出張所 新築及び業務開始	<p>◆ 消防署朝里出張所の新庁舎は、来月からの業務開始を予定。新庁舎には、消防自動車に加えて手宮支署から救急自動車1台を移動配置し、桜、朝里、望洋台、船浜町、新光地区における救急業務を24時間体制で実施。</p>